

### 🎹 チェンバロの日！2016 🎹

5月14日(土)・15日(日)

新しい季節と共に、「チェンバロの日！」がやって来ます！  
5回目を迎える今回の主役は、ヨハン・ヤーコブ・フローベルガー！  
鍵盤音楽の歴史において、重要な役割を果たした彼は  
なんと今年が生誕400年！（1616～1667）  
そんな訳で、徹底的にフローベルガー三昧な二日間です！

がしかし、もちろん、それだけではありません！  
チェンバロを愛する方々の、好奇心と探求心をくすぐるべく  
様々な企画がてんこ盛りです！



#### コンサート

フローベルガーにちなんだコンサートが4回開催されます。  
様々な角度からフローベルガーを掘り下げたプログラムを通  
して、彼自身のひととなりや、彼から影響を受けた作曲家へ肉  
迫できるかも知れません。当時はまだ珍しかったコスモポリタ  
ンな彼の音楽は、どのように熟成されていったのでしょうか？

#### 講座

フローベルガーにまつわるレクチャーの他にも、楽器製作者に  
よるチェンバロの解剖講座が開催されます。知っているようで  
意外に知られてないチェンバロの全貌を、豊かな経験に基づい  
た実演と解説を通して、じっくり堪能してみてください。また少  
し、チェンバロと仲良くなれるかも知れません！

#### ミニチュアチェンバロを作ろう

昨年大好評を博した、ペーパークラフト！あなたの理想とセン  
スを小さなチェンバロで体現できる、夢のような時間です！  
美しい装飾を施しながら、気がつけば楽器の構造も学べます！  
手のひらに乗った、世界で一つだけの小さなチェンバロから、  
あなたの心の中には、どんな音が響くのでしょうか？

#### クイズ・チェンバーオン！

チェンバロにまつわる様々なクイズが10問出題されます！  
曲を聞いて曲名や作曲家を答えたり、五度圏図を見て音律を答  
えたり、装飾などからチェンバロの国籍を答えたり…。  
計4回開催されますが、各回の最高得点者には、豪華な粗品？を  
プレゼント！チェンバロ博士を目指して挑戦して下さい！

#### チェンバロの日々

過去4回の「チェンバロの日！」の懐かしい情景を、写真を集  
めたダイジェスト映像で放映致します。リピーターの方も、初  
めての方も、楽しんでいただけたらと思います。  
1階サロンにて、クイズ大会を開催していない時間帯に放映し  
ておりますので、まったりとくつろぎながら、御鑑賞下さい！

#### 楽器紹介

コンサートを楽しんでいただいて、休憩時にはシゲシゲと眺  
めていただいて、それらの楽器の魅力を更にたっぷり堪能で  
きる楽器ガイドツアー。今回は、チェンバリストの上尾直毅氏  
が解説と演奏を担当されます。約1時間の小旅行を通して、ま  
た新しいチェンバロの奥行きに出逢えるかも知れません！

#### フリーコンサート

毎年、様々な楽器が登場し、サプライズに満ちた愛好家による  
コンサート。今年はクラヴィコードも使用される予定ですので、  
聴衆の耳はますますダンボになることでしょう！チェンバロ  
を愛するアマチュアの方や、チェンバロ専攻の学生さん達の日  
頃の練習の成果が花開く、華やいだひと時です！

#### 展示販売

目的物であれば、ネットで購入出来る便利な時代ですが、そこ  
に道草はありません。何気なく物色しながら新しい音楽と出会  
えるのも、物販コーナーの魅力のひとつかもしれません。珍し  
いCDや楽譜、更に運営委員による手作りチェンバロ小物が勢  
ぞろいして、あなたの財布の紐を解いてくれることでしょう！

#### 懇親会

イベント開催中は、何かと慌ただしくてチャンスに恵まれませ  
んが、懇親会ではゆっくりと演奏者や製作者と時間を共有する  
ことが出来ます。今回は参加費が無料です！持ち込みも大歓迎  
です！（但し設備の都合上、調理や温め等が不要なものに限ら  
せていただきます。）どうぞ有意義な時間をお楽しみ下さい！

#### それから

会場は、交通の便こそ良くありませんが、それに勝るロケーシ  
ョンがあります。それは豊かな自然の緑と響きです。人酔いし  
てしまったり、コンサートの余韻に浸りたい時、どうぞ庭へ出  
てみて下さい。人の為す尊い創造と、慈愛深い自然に抱かれる  
「チェンバロの日！」に、どうぞお運び下さい！

第16回例会報告 「ヨーロッパ古楽器探訪～渡邊順生による2015年ヨーロッパ各地のチェンバロ歴訪報告」

第16回例会は、10月25日(日)13時より、桐朋学園大学調布キャンパスにて開かれた。渡邊順生氏は、数十年に及ぶオリジナル楽器探訪の成果を、4時間にわたって惜しみなく語られた。会員8名、一般9名のほか、同大学から12名の参加があった。会場提供など、共催校として数々の便宜を図って下さった桐朋学園大学に、心よりの御礼を申し上げる。(坂由理)

その日は良い天気です。申し分のない秋晴れ、調布の駅から会場へ向かいました。

受付で資料として“List of Collection of Early Keyboard Instrument”をいただきました。その資料には50あまりの博物館や記念館、個人のコレクションと、200台は超えると思われる楽器の製作者と年代が記されており、思わず目を瞬く壮観さです。

13時、早速レクチャーが始まります。イギリス、ベルギー、オランダ、ドイツ、オーストリア、ハンガリー、フランス、イタリア、アメリカへの長い旅は、まずエディンバラ・ラッセルコレクションから始まりました。楽器の様々な特徴はもちろん、修復、所有の変遷、ユニークさ、装飾のこと等をお話と映像とCDによって紹介していただきました。大幅に時間を超えてお話していただきましたが、それでも、

後半の国々は超特急で通過せざるを得ませんでした。渡邊氏がこれまで訪ね歩き、向かい合った楽器の多彩さとその深さ故に、氏の心中にある語るべきことは一つのレクチャーに収まるものではないでしょう。氏の大著「チェンバロ・フォルテピアノ」の序文にもラッセルコレクションとの出会いとその後のことが書かれていますが、大変印象的です。

戦争を含めた社会の変動の中、数百年という長い年月の間、様々な所有者の手を経て、修復され、演奏され、多くの人々に喜びを届けている幸福な楽器の数々は、人の手による素晴らしい遺産であるとあらためて思います。それらの楽器の前に立つこと、触れることは簡単にできることではありませんが、CDに納められた豊かな音や響きに耳を傾け、想像力を動かして、楽器そのものに思いをはせる大変良い機会となりました。

(菅原幸枝)



第17回例会報告「ピーター・ヤン・ベルダー氏を迎えて」 2015.11.24 古楽研究会 Space 1F

鍵盤のみならずリコーダー奏者としても活躍するベルダー氏ですが、今回は招聘元ムジカテミス(社団法人音楽事務所、代表西澤新氏)のご依頼を受けての開催となりました。マスタークラスとミニコンサートを半日で開催(12:45～20:00)という少々ハードなスケジュールでしたが、全行程参加の方も少なくなく、双方の熱心さが生き生きと伝わる時間となりました。

マスタークラスは5枠の募集でしたが、チェンバロを始めてまだ日が浅い中学生から専門の音大学生、ハイレベルなアマチュアまでと、ヴァリエティに富んだ受講メンバーとなりました。受講曲もベルダー氏の十八番であるスヴェーリンク(3名)と、最近録音したデュフリ(2名)に的を絞ったため、聴講者も準備がし易かったのではと思われます。ほぼ全員が厚い楽譜

持参で熱心に聞き入っておられました。

身振り手振りのみならず、歌までも豪快に交えたレッスンはとても判り易く親しみ易かった、という声が多く聞かれました。身体の使い方、振り子の動き的なリズムの感じ方など、根本的な事柄の大切さを強調されたレッスンでした。

コンサート(60分)はレッスン終了後、僅かな休憩を取ってから行われました。前半はスヴェーリンクのトゥカータ、涙のパヴァーヌ等名曲集、後半はバロック・ヴァイオリンの木村理恵氏(オランダ在住)を友情出演に迎え、一緒にCD録音をした3曲を含む第3巻からの抜粋でした。両方とも練り込まれた音楽創りに圧倒されましたが、特にスヴェーリンクは本当に「言語」がはっきり聴こえて来る秀演に全員が引き込まれました。レッスン、コンサートともベルダー氏が自分で調律を行って下さったので、少ないスタッフが大いに助かった事も付け加えておきます。(乗形亜樹子)



●マスタークラス 感想

スヴェーリンク、デュフリの作品を通して終日一貫して言われ続けたのは、呼吸の取り方と脈拍を感じるテンポの捉え方だった。アーティキュレーションやフィンガリングなどの細かい技術面から、作曲家が書き残した音符から演奏家が何を感じ、いかに想像力を豊かにふくらませ、ストーリー性のある音楽に創造し表現していくのか、という深いところまで、時にはユーモアを交えながら話して下さい、とても興味深いマスタークラスだった。(田中新香)

## 第18回例会報告 「初心者向き通奏低音講座～数字に慣れよう～」

第18回例会は、2016年1月30日（土）14時半と18時の2回、御茶ノ水のスタジオ・トリアノンで行われた。遠く札幌や神戸からの参加もあり、2回とも満席（定員各15名）。チェンバロ音楽の幹であり、根である「通奏低音」への関心の高まりを感じさせた。（坂由理）

「初心者向き通奏低音講座を聴講して」

チェンバロ歴こそ20年程になるのですが、数字付き通奏低音は苦手でいつまで経っても初心者レベルの私にとって、この講座のチラシを見た時「初心者向き通奏低音講座～数字に慣れよう！～フランスの通奏低音科1年目の教材を利用し、いつの間にか、楽しみながら数字を操れる方法をご紹介します」との謳い文句にはとても心惹かれるものがありました。これは、行かなくては！と思いました。同じ気持ちの方も多かったようで、申し込みは定員オーバーでもうひとつクラス増設され、当初の昼のクラスに加えて夜のクラスも開催されることになり、私は夜のクラスに参加しました。

まず講師の野澤知子さんの「私も最初は通奏低音が苦手でした」との言葉に励まされ講座ははじまりました。それからこやかに「今日はレクチャーというよりはワークショップ形式で行いたいと思います」とおっしゃいました。一番後ろの隅の席でひそかに聴講することを目論んでいた私としては「ワークショップ形式！」と青ざめた瞬間でした。前の列の端の席の人から順番に、配られたテキストの課題の譜例を前に出てチェンバロで弾く…ということに！！参加者はチェンバロの経験のない方や通奏低音は初めてという方も多かったようですが、皆さん問題なくこなされているように感じました。じわじわと順番が近付いてきて、自分の課題はどれかとこっそりテキストをめくり譜例を数え始めたところで前のお二人がまさかのパス！本当にどうしようかと思いました。



そんなわけで前に出て弾くことになりましたが、私の課題の曲はM.A.シャルパンティエの“Prélude pour le Salve Regina”というとても素敵な曲でした。数字が書かれていないところは自分で数字を付けて弾く、など思っていたよりハードルが高く「ほ、本当にこれは初心者向きですか？」と思いましたが、野澤先生の優しいアドバイスによってどうにかこうにか弾き、というか弾けていたのかどうかよくわからないという有様でしたが、よい勉強になりました。それにここの会場のエミール・ジョバン、本当に素敵な楽器ですね！！触れさせて頂けて、それだけでも良い経験になりました。

当初の目論見「いつの間にか、楽しみながら数字を操れる」ヒントを何か頂けたら、と思っていたのですが、それはこの講座を2時間半弾き終えた後にそうなっているかといったらそれは甘かった…ということになります。おすすめのテキストなども紹介してくださり、良い曲を聴いて色々弾いてみるのが大切なのだと感じることが出来、とても有意義な時間でした。（北島香織）

## 🌸 コラム「されど ひたむき」 🌸

（加屋野木山）

今は残念ながら確かめることができない。何故チェンバロを造りたいと思ったのか。聞きたいことは山ほどあるのに、叶わない。

1月下旬に、とある方から、息子さんが作ったチェンバロの動画を紹介して下さるメールをいただいた。わざわざ私に連絡を下されたのは、彼（息子さん）がチェンバロを製作中に、頻繁に私のブログを見てくださっていたというご縁だった。私は早速、彼の動画とブログを拝見し、それが尋常でないことを悟り、「是非、実際にチェンバロを拝見させて欲しい」と返事をした。

その願いは、2週間後に叶えられた。九州の仕事の帰りに兵庫に立ち寄り、彼のチェンバロに会うことが出来た。実物を前にして、私は感動と畏れに包まれた。そのチェンバロは、大学院生がインターネットなどで図面や材木店等を探し、設計から装飾まで全て一人で製作したものである。ブログを拝見する限り、慎ましい工具と、それを大きく凌ぐ知恵と情熱で作った楽器である。

彼の製作過程を見ていくと、ことごとく本質を把握していることがわかる。限られた工具で、見事な工夫を重ね、難所をクリアして進めているのである。そのほとんどが手作業によるもので、製作を経験した者としては、そのひたむきさに驚愕させられる。

思えば、本場ヨーロッパでも日本でも、最初にチェンバロを製作した方々は、同じような苦勞をしながら道を歩み始めたことが想像できる。そうした方々の恩恵の中で、私達はチェンバロ音楽を存分に楽しむことが出来ている。そんな感慨も抱かせるものだった。

しかし、この楽器を造った彼とは、会うことが叶わなかった。楽器を完成させ、自ら演奏した動画を公開した翌日に、彼は帰らぬ人になっていたからだ。ただ、この楽器とそこにぎっしりと詰められた情熱だけを残して、23歳という若さで旅立ってしまった。

私は、一人でも多くの方々に、彼の遺した偉大な世界に触れてもらいたいと願っている。遠くない将来、この楽器で小さなコンサートを開く約束も、ご家族からいただけた。託されたバトンと、たくさんのエネルギーを貰った感謝と共に、私は走り抜きたい。

検索：フレンチ・チェンバロの作り方 アドレス：<http://kinu1202.blog.fc2.com>



## 🎹 会計より

### 更新手続きのご案内

平素は日本チェンバロ協会活動へのご理解とご協力を賜り、誠に有り難うございます。  
お手数ですが、2016年度（4月1日から翌3月31日）年会費を下記口座までお振込ください。  
2015年度分を未納の方は、2016年度分と合わせてお納め下さい。ご入金を確認でき次第、新しい会員証を送付致します。

【年会費】 正会員／6000円 正会員（学生）／3000円  
一般会員／3000円 法人・団体会員／10000円

なお、5月14、15日開催「チェンバロの日！2016」の会場でも更新手続きを致します。どうぞご利用下さい。

また、今後の催しやホームページの充実など、より良い活動の実現のために、随時賛助金を受け付けております。  
正会員・学生会員／一口3000円より  
法人・団体会員／一口10000円より

＜お振込先＞ ゆうちょ銀行

名義：日本チェンバロ協会 店名：〇〇八（ゼロゼロハチ）  
店番：〇〇八 預金種目：普通預金 口座番号：〇724661

## 🎹 例会係より

日本チェンバロ協会では、主催行事である例会を公募しています。特に東京外では、ご自身が学びたい事や方法にたどり着ける機会が、より少ないかもしれません。「こういう会を催したい」「こういう会があったら良いのに」など、そのアイデアを反映させてみませんか。皆さんの手で、自分の学びたい方法で学べる場を作ってみませんか。

- ・開催時期、会場、内容など、具体的であればあるほど実現性が高まりますが、アイデアだけでも構いません。
- ・応募いただいたもの全てが採用されるわけではありません。
- ・どうぞ、お気軽にご相談下さい。沢山のご応募をお待ちしております。 例会係：[cembalo\\_events@yahoo.co.jp](mailto:cembalo_events@yahoo.co.jp)

## 🎹 運営委員より

メールアドレスを変更された方はご連絡をお願いします！ 最新のメールマガジン（3月6日付第44号）を受信できていらっしゃらない方はご連絡ください。また、引越しの際には新住所をご連絡ください。  
年会費のお支払い状況に関するお問い合わせ、メールアドレス変更や住所変更のご連絡は、事務局までお願い致します。  
事務局：[japan.harpsichord.society.jp@gmail.com](mailto:japan.harpsichord.society.jp@gmail.com)

## 🎹 広報も筆の誤り

チェンバロの鍵盤を良く見てみると、白鍵（ナチュラルキー）の手前の部分、そして黒鍵（シャープキー）の幅は均一なのに白鍵の奥の細長い部分の幅は、何やら不揃いなものがあります。もしかしたら、D音の幅が一番広がっていませんか？  
しかし、ピアノでは、白鍵の手前も奥も、皆同じ幅になっています。白鍵と黒鍵の隙間の幅で、うまく調整してあるようです。会報を作っていると、様々な原稿と写真が届いて、それらをレイアウトしなければならないのですが、これがなかなか難しい…。チェンバロのD音の奥幅のような現象が起きないように、写真の大きさなどで調整していきます。しかし、写真のサイズも様々なので、時にはトリミングして、それでも駄目な場合は、わずかに縦か横の縮尺を調整しなければなりません。ただ、横に伸ばし過ぎると、松坂慶子がマツコデラックスのようになってしまうので…。人が映っている写真では、微妙に命がけの作業になります。でも、5オクターブ内で、あれだけ立体的な作曲をしたり、様々な制約の中で美しく響かせる音律のことを考えると、なんだかレイアウトもバロック的な作業だなと勘違いし始め、やはり不均等でいいやと聞き直り、気がつけばバラックになっていたります。

会報第6号 2016年4月1日発行 発行人：久保田慶一  
編集：及川れいね、加屋野木山、高橋ナツコ、山縣万里  
運営委員会：大塚直哉



日本チェンバロ協会  
Japan Harpsichord Society

日本チェンバロ協会事務局  
住所：〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1丁目44-4 1階  
電話：030-9661-8196（火曜日 10時～17時に対応）  
メール：[japan.harpsichord.society@gmail.com](mailto:japan.harpsichord.society@gmail.com)  
ホームページ：<http://japanharpsichordsociety.jimdo.com>